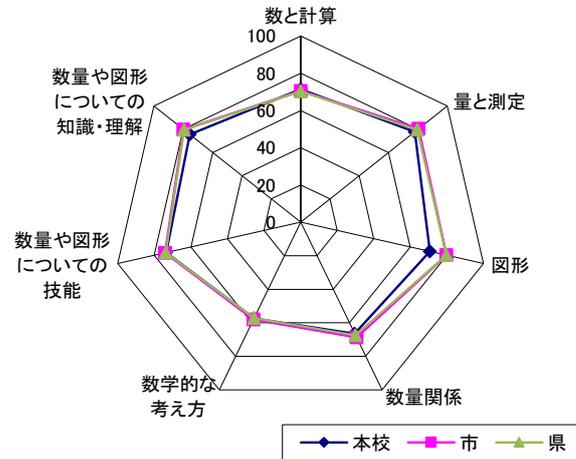


宇都宮市立清原東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.4	70.5	70.3
	量と測定	77.8	80.4	79.6
	図形	70.7	79.8	79.7
	数量関係	66.5	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	57.3	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	73.5	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	75.5	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均正答率とほぼ同じである。 ○整数－小数＝小数(1/10の位までの小数)は、市の平均正答率を上回り、よく理解できている。 ○除法について余りを適切に処理し、その理由を書くことが市の平均正答率を上回っている。 ●数直線の日盛りを分数で表したり、整数を単位分数のいくつかで表すことへの理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、計算ドリルなどを使って繰り返し練習させていく。 ・数直線だけでなく、絵や図を利用したり、具体物を利用したりして、分数の概念を視覚的にとらえさせていく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ○時間や長さの単位の変換は市の平均正答率とほぼ同じで、他領域と比べて高い。 ●はかりに示された重さを読み取ったり、およそ1キログラムの物を選んだりすることなど、重さについての理解に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した単位については、実際にはかりなどの道具を使って測定するなど、体験的・操作的な活動を充実させ、実感を伴って理解できるようにする。 ・教室にメジャーやはかり、ストップウォッチなどを用意し、日常的に触れさせることで、長さや時間、重さなどの感覚を磨かせる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率と比較すると、図形領域全般に課題が見られる。 ●円の直径を表す線分を選ぶことについては6割の正答率であるが、市の平均正答率より下回っている。また、正三角形の作図については7割以上の正答率であるが、市の平均正答率よりやや低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習を取り入れ、三角形や円の作図の指導を丁寧に行っていく。 ・図形の定義や性質を理解させるために、朝の学習や家庭学習で繰り返し問題に取り組ませる。 ・具体物を操作する活動を意図的に取り入れ、円・球や三角形の図形の見方、考え方を伸ばす指導を行うようにする。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均正答率とほぼ同じである。 ○□を用いた情報の式に適した場面を選ぶ問題や、等分除の問題について除法の式を立式し答えを求める問題については、市の平均正答率を上回っている。 ●線分図にかかわる問題については、市の平均正答率を下回っており、今後の課題である。 ●式が表している意味を読み取り、適した説明を選ぶことや、棒グラフから条件に合う曜日を選ぶことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題から線分図を作成する活動を多く取り入れ、問題に慣れさせる。 ・自分で文章問題を作成し、解き合う活動を多く取り入れる。 ・他教科と関連付け、棒グラフを読み取ったり、自分で作成したりする活動を多く取り入れる。